

谷江武士教授定年退職記念号によせて

経営学部長 瀬川新一

谷江武士教授は、2017年3月末をもって定年を迎えられ、名城大学を退職されます。長きにわたり旧短期大学部・経営学部の研究教育に多大な尽力をされ、学部の発展に貢献されました。

谷江教授は1968年に法政大学社会学部を卒業された後、法政大学大学院社会科学研究所修士課程に進み、つづいて1970年に駒澤大学大学院商学研究科博士課程に進学されました。そして1972年10月、博士課程在学中、南日本短期大学経営学科専任講師に着任され、加茂暁星短期大学を経て1986年4月に名城大学短期大学部助教授に着任されました。

名城大学短期大学部では、1989年4月に教授に昇任した後、1995年6月に短期大学部長に就任し（1999年3月まで）、研究教育と学内行政に尽力されました。2002年4月に経営学部に移籍され、2003年4月に経営学研究科修士課程○合教授、2006年4月に経営学研究科博士課程○合教授（会計学原理特殊研究）に就任されました。学内行政としては2005年4月に経営学科長（2006年3月まで）、そして、2009年4月に経営学研究科主任教授を歴任されました（2013年3月まで）。また教育面では、主に経営分析やキャッシュフロー会計を担当され、谷江先生のお人柄・人格もあって会計・ファイナンス分野の中心的な存在としてだれからも信頼・頼りにされる貴重な存在でもありました。

谷江先生の研究業績は、単著8編、共著27編、学術論文33編、その他14編、に及んでいますが、大別すると3つの領域に分類できると思います。まず、1999年に授与された博士号の学位請求論文となった『ユーゴ会計制度の研究』（大月書店刊）に代表されるユーゴスラヴィアにおける会計制度に関する研究、企業の資本蓄積と内部留保を視野に置いたキャッシュフロー・経営分析論に関する研究、そして、東京電力の経営分析に代表される具体的な経営分析の3つの領域です。会計学は専門外であり、しかも浅学の私が先生のご研究を十分に理解・評価できるものではありませんが、谷江先生のご研究は、「企業」の経済活動とその会計学的把握・所得分配に関する問題意識が一貫して横たわっているように思われます。それは、最近の研究では（東京電力を中心とした）電力会社に関する最近の論文に強く感じます。先生は、物静かで、ひかえめなお人柄であり、あまりものを言わぬ方ですので、先生のご著書を熟読しようを思っています。

ここに谷江先生の名城大学におけるご尽力と功績に定年退職記念号を刊行し、先生に感謝の意をもって捧げたいと思います。今後はご健康に留意されて、これまで以上にご活躍されんことを祈念して、定年退職記念号によせる言葉といたします。